

日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同  
工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会  
老朽および遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する  
検討小委員会（第24期・第5回）議事録

1. 日時 平成31年3月27日（水）15:00～17:00
2. 会場 日本学術会議5階 5-A(1)会議室
3. 出席委員 朝比奈潔 新井充 岸田伸幸 高木和広 藤原修三  
古崎新太郎 水野光一 山内博 横田真（50音順）  
話題提供者：村上和彰（九州大学名誉教授）
4. 議事要旨

1) 前回議事録の確認（資料1）

第4回議事録（資料1）を学術会議事務局に提出したことが報告され、確認された。

2) 話題提供：九州大学名誉教授 村上和彰 氏

「Society 5.0への最初の一歩：収集・蓄積したデータをアセット化し、価値に変える！」

ゲスト講演者である村上和彰九州大学名誉教授より、データを如何に価値に変えるかという点について以下の要点からなる講演があり、その後質疑応答を行った。

- (1) 価値化 1&2: “Discover Fast” & “Curation”
- (2) 価値化 3: “Share & Synthesis”
- (3) 価値化 4: “Analytics & AI”
- (4) 価値化 5: “Utilize & Invest”
- (5) データアセット= 元のデータ+ メタデータ+ API
- (6) 2つの重要な設計思想: プラットフォーム× エコシステム

山内委員) J. Hopkins 大など米国 NHI 系予防医学研究者が近年得意とするオープンデータを集めてきて分析するアプローチについて、今日の講演でよく分った。但し、本小委員会は、情報制限や状況認識でギャップのある中国での事業も検討対象としている。そのような場合の留意点は何か。

村上氏) 中国では物の流れは自由にしつつ情報は規制するという自己矛盾した動きがあるが、いずれは是正されると考えている。今から準備する位が丁度良いかもしれない。日本政府はオープンデータ利活用に積極的だが、民間がデータ公開に保守的なのは残念。

横田副委員長) OACW 処理事業に関してきた様々な組織・機関は夫々データを持っている

が、利活用法が分からないために死蔵している。それを何らかのプラットフォームを設けて、そこに投げ込んで貰って、所要のセキュリティを確保しつつ共有することができればと考えている。そのための技術的仕組みが出来るようになってきているということか？

村上氏) そうなっている。一定のアクセス権限を設定し、特定の人達のみがシェアすることは、技術的にはオープン化よりも容易で十分実現できる話だが、利活用の点ではクローズドモデルなので少し寂しい。もう少しオープン化のレベルを上げることで面白い展開が望めるのではないかと思う。システムとしては存在しているので、特注しないでも SaaS を使えば閉じたコミュニティの中での実現は可能。

岸田幹事) 所要のデータをどの組織がアーカイブしているかあたりはついてはいるが、サイロ化していてアクセス困難であり、データ形式も不詳という状況がある。それらを引っ張り出すことが出来れば、プラットフォーム技術で DB 化は可能ということか。

村上氏) サイロへのアクセス権限を確保してデータをハーベスティングできれば、カタログ化してまとめ、所要のデータをファイルでダウンロード可能にできる。

岸田幹事) 本事業は 70 年前の戦争下の情報や情報公開法範囲外の情報が相手なので、収集すべきデータをキュレーションし、適切にメタデータを付してゆかないと、すぐには使い物にならないだろう。これらへの AI 技術の応用はどの程度進んでいるのか？

村上氏) AI は機械学習として説明したが、機械学習のディープラーニングでコンテンツ分析させて、メタデータ生成や検索／キュレーションすることが話全体の前提になっている。一定の教材データさえ用意すれば、AI が自分で学習して分析できる様になる。

横田副委員長) 所要のプラットフォームを作ることは技術的に可能だが、関係者が自発的にデータを入れてゆく動機付けをつくらないと、持続的な仕組みにならないということか。

村上氏) オープンデータ振興上の難点は、データが揃っていないから使わない、使えないからデータが揃わないという「鶏と卵」状態が生ずること。欧米では公共が出した十分なデータを基にビジネスになるオープンデータのエコシステムが出来ており、事業者も自治体も歓迎している。そこに持っていくための段取り作りがポイントと思っている。

横田副委員長) ありがとうございます。村上先生は所用のためここで退席しますが、本件について更に質問事項などありましたら、遠慮なくお問合せ下さい。(村上氏退席)

### 3) 報告書案査読対応状況について(資料2、資料3)

藤原委員長より、親分科会の指摘事項への回答書(資料2)と査読修正を反映済の報告書案(資料3)を示しつつ、査読対応状況に関する説明があった。岸田幹事より、同回答書に対し本日親分科会から誤植1ヵ所修正の留保付(その後印刷上誤植に見えるに過ぎないことが判明し、問題ない旨事務局の了解を得たことも紹介)で承認の連絡があったとの報告があった。

続いて、今後の査読承認プロセスについて事務局に照会したところ、①総合工学委員会委員長の承認(メール承認)、②日本学術会議第三部会による査読、③日本学術会議幹事会で

の説明および承認、の順序で進むことが確認された。

②第三部会の査読に対しては親分科会査読と同様に、横田副委員長、岸田幹事が中心となり、分担執筆者と連携して査読対応することが確認された。更に、③学術会議幹事会での説明に本小委員会から2名の出席が必要なことから、幹事会開催日時の確定を待って、幹部委員から出席者を選任することが確認された。順調なら今夏頃の幹事会に付議される見込みと、事務局から説明があった。

#### 4) その他

藤原委員長より安全工学シンポジウム 2019 (7月3日(水)～5日(金))のオーガナイズドセッション参加の登録を行った旨の紹介があり、一同異議なく了承した。続いて藤原委員長より3乃至4演題が望ましいと述べ、同セッションの演者と演題について諮った。協議の結果、(1)朝比奈委員による化学兵器処理問題の世界的動向、(2)神戸製鋼北村竜介氏によるハルバ嶺処分場の状況、(3)山内委員による米国に於けるヒ素防護対策のトレンド、(4)内閣府担当室関係者による中国遺棄化学兵器処理問題の近況報告、の4演題が提案された。これらの中、演題(1)については朝比奈委員から、演題(4)については横田副委員長から、それぞれ演者所属機関に打診することとした。

閉会時間となったので、次回会合日程は後日調整することとして、議長は閉会を宣した。

以上